

研究・調査報告書

報告書番号	担当
292	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
樽酒中の成分同定とその健康増進効果	
執筆者	
松永恒司	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
醸協、2002、97(11)、744-750	
キーワード	
樽酒、GC-MS 分析、セキステルペン類、鎮静効果、胃粘膜保護	
<p>要 旨</p> <p>これまでに樽酒の香り成分の研究についてはほとんど行われていない。樽酒は清酒を樽で貯蔵して、そのまま、または瓶に移し替えて提供されるが、その色や香りには特徴的である。本論文では樽酒から杉樽成分を抽出し GC-MS 分析に供することによってその成分分析、並びにその成分を健康面から考察した。</p> <p>樽酒をガスクロマトグラフ質量分析計に供し測定したところ、セキステルペン（α-Muurolene, δ-Cadinene, α-Curcumene, Clamenene）、セキステルペン類（Gleenol, Cubenol, Epi-cubenol, Elemol, Cedrol, Eudesmol, Torreyol, α-Eudesmol, β-Eudesmol, Kongol）、セキステルペンケトン（Cyptomerione）の存在が明らかとなった。また、これまで木香様の香りの原因とされているアセトアルデヒドについて検討したが、その含量は 16-53ppm と低く、樽酒の木香にはアセトアルデヒドよりもセキステルペン類の寄与が大きいと考えられた。</p> <p>これらのテルペン類について、健康面からの考察を考えると、樽酒中に含まれるテルペン類は鎮静効果などの効果について考察されている、シダーウッド、アミリス、サイプレスなどの精油成分と共通する物を含んでいる。また β-Eudesmol、Elemol には胃粘膜を保護することにより潰瘍進行を阻止する作用があることが報告されている。さらに、Eudesmol については DNA 損傷抑制作用があるとの報告もある。</p> <p>以上のことを考慮すると樽酒中には体に有効であると明らかになっている様々な成分が含まれており、何らかの効能を有すると考えられる。</p>	